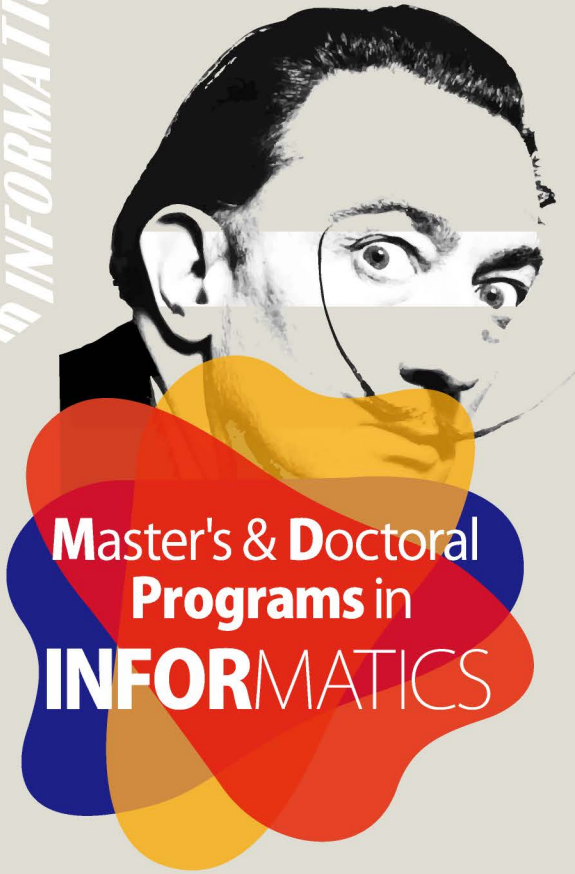


2025~ 2026 The HITCHHIKER'S GUIDE to MASTER'S and DOCTORAL PROGRAMS in INFORMATICS

情報学 学位プログラムへの
ヒッチハイク・ガイド

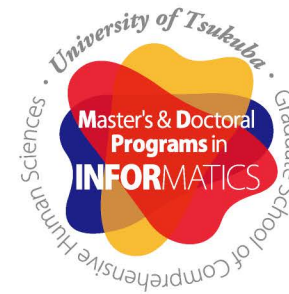


<https://informatics.tsukuba.ac.jp>




筑波大学
University of Tsukuba

What is the Degree program in informatics?



筑波大学大学院
人間総合科学学術院
人間総合科学研究群

*Master's and Doctoral Programs in Informatics,
Degree Programs in Comprehensive Human Sciences,
Graduate School of Comprehensive Human Sciences,
University of Tsukuba*

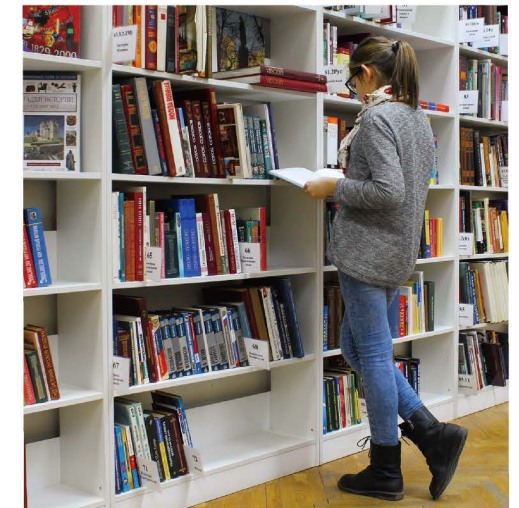
「ゆく川の流は絶えずして、しかも元の水にあらず」
これは鎌倉時代（13 世紀）の随筆『方丈記』の冒頭の
一節です。この世は常に変化しており、一瞬たりとも
同じではないという意味です。情報も同様で、世界と
ともに流転します。

川の流れのように常に変化する情報をとらえるために
は、複数の領域にまたがる学際的な視点から研究する
必要があります。学際的であるとは、単一の専門分野
で扱うには広範で複雑すぎる課題に対して有効なアプ
ローチです。複数の領域の方法論を単純に適用するだ
けでなく、新しい方法論を開発し、知見を統合するこ
とで課題を解決します。

情報学学位プログラムは、世界中のデータを知識とし
て再構成し、文理融合の方法論を開発することで、世
界の複雑な課題を情報の観点から解決することを目指
としています。本学位プログラムには、哲学、社会思
想史、メディア技術史、人間情報学、文化人類学、デ
ジタルネイチャー、デジタルヒューマニティーズ、生
命情報、ロボット、集合知、ソーシャルメディア、知
識commons、情報法、図書館、博物館、アーカイブズ
など、多彩な専門家が集まっています。

情報学学位プログラムに興味を持った方はぜひとも
Web サイトにアクセスしてください。情報学学位プロ
グラムの全容を知れば、必ず入学したくなるでしょう。

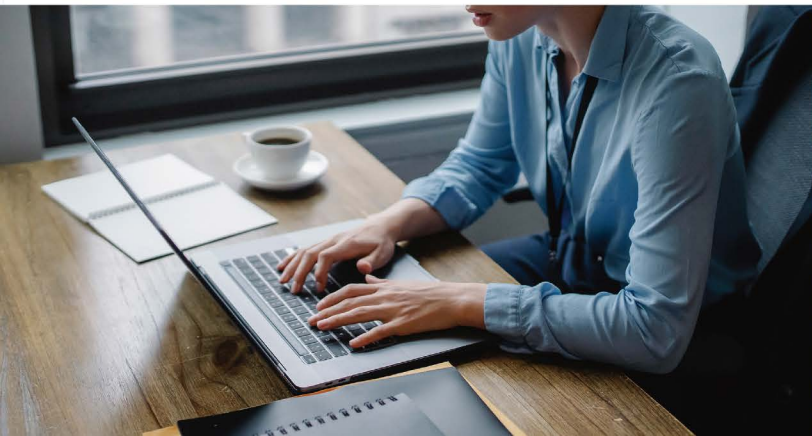
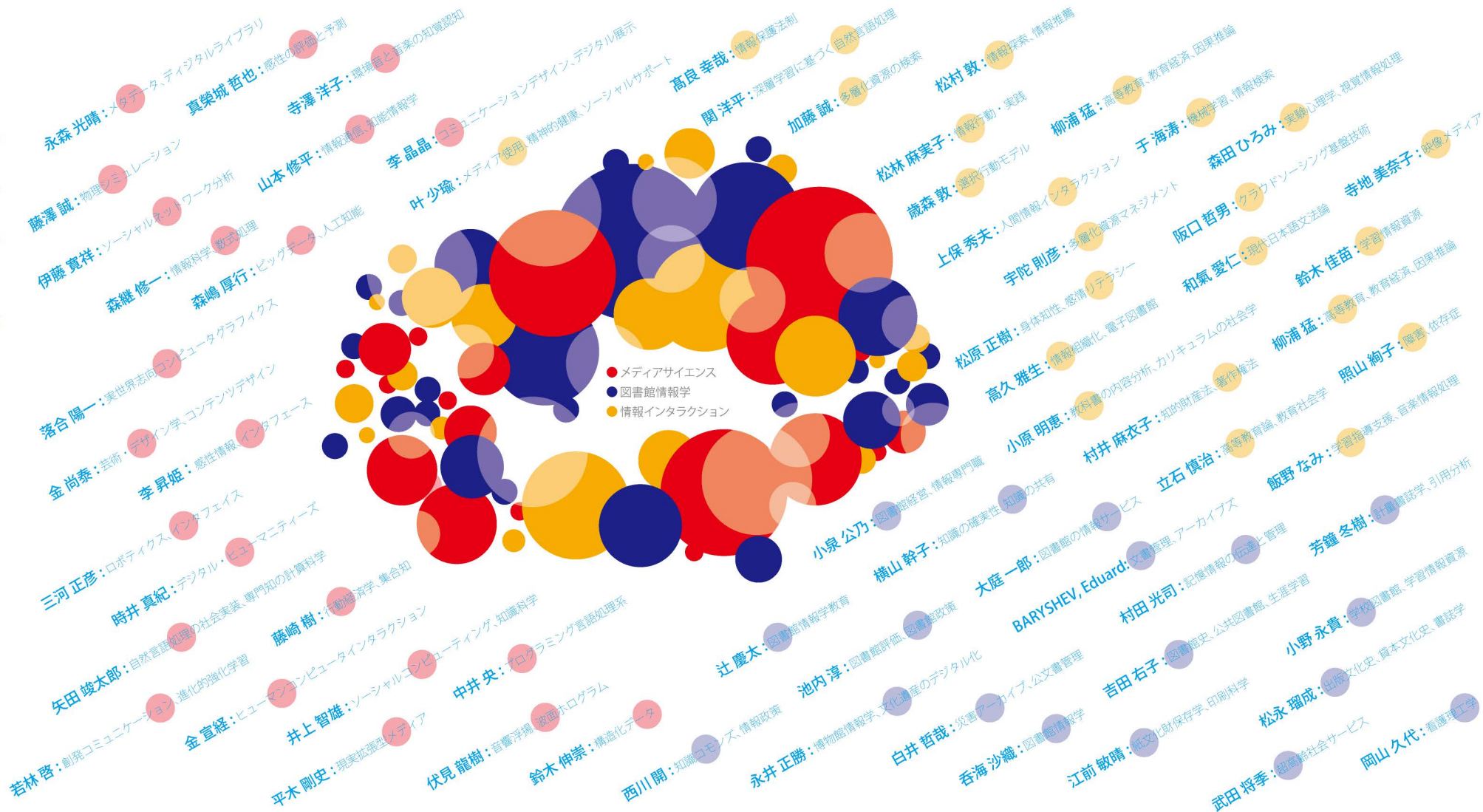
情報学学位プログラムリーダー
宇陀則彦





Academic staff

本学位プログラムは大きく3分野に分けられています。
研究指導資格確認・研究キーワードや詳細はWEBをご参照ください。





Admission Information

*年度別に実施日の変更があります。詳細はWEBをご参照ください。



■ 入試概要

情報学学位プログラムでは、優秀な人材を幅広く募集するために、推薦入学試験（7 月実施）、一般入学試験（8 月実施、1-2 月実施）、社会人特別選抜（8 月実施、1-2 月実施）、英語受験者特別選抜（1-2 月実施）のように形態の異なる入学試験を同一年度内に実施しています。入学試験科目には英語試験、口述試験、書類審査があります。各入学試験は博士前期課程、博士後期課程ともにアドミッションポリシーに従って実施されます。

■ 博士前期・後期課程

情報学学位プログラムは、文系・理系といった区分を越えた新しい学問領域の開拓を目指し、学際的でさまざまな領域の研究が行われていることから、学群・学部段階での専門領域にこだわらず、分野・経歴・年齢・国籍を問わず、学ぶ意欲・研究意欲の高い人を幅広く受け入れます。

■ 早期修了・長期履修制度

本学位プログラムでは、職業等に従事しながら学習を希望する人のための長期履修制度のほか、条件を満たせば早期修了も可能です。詳細は WEB をご参照ください。

■ 研究生・科目等履修生

研究生制度は、特定の専門事項について研究指導担当教員のもとで研究を行える制度です。日本人と外国人では出願方法が異なります。

科目等履修生制度は、本学大学院の授業科目の履修を認め、一定以上の成績を修めた場合に正規の単位を授与する制度です。

Student's Voice



博士前期課程 2 年
鐵見咲希（小泉研究室）

私はより専門的に図書館について研究するために進学しました。授業は学類時に比べて専門性が高まり、自身で調べて考える力を身に付けることができています。また研究に充てる時間が多くなり、自身の研究を進めるとともに、ゼミの活動において研究室のメンバーとの意見交換を通して刺激を受けています。国際学会への参加や国際共同研究への取組みを通じて多くの研究者の方々と交流するとともに、研究の面白さや必要性を実感しています。現在は図書館協議会の委員や他大学の非常勤講師も務めており、取り組んできた研究や活動を通して得たものを社会に還元していきたいと考えています。進学したことで自分のことや社会のことを広く見ることができるようになりました。



博士後期課程 1 年
井上 直紀（若林研究室）

私は博士後期課程 1 年次で、現在は機械学習の計算機シミュレーションを用いて「言語とは何か」という問いを計算論的な知見から考える研究に取り組んでいます。このような学際的な課題に取り組むには、特定の専門分野の枠にとらわれず、多角的な視点を持つことが不可欠です。そのため、前期課程では他分野の講義を履修し、異なる背景を持つ学生と議論を交わす機会を積極的に活用しました。また、週 2 回の研究室のオフィスアワーでは、指導教員や研究室メンバーとのディスカッションを通じて、異なる視点からの気づきを得る機会を大切にしています。こうした学びは、自身の研究をより深めるうえで大きく役立っています。さらに、研究設備が整っているだけでなく、学会での研究発表を支援する制度も充実しており、これらの環境が博士後期課程への進学を後押しする要因となりました。



博士後期課程 2 年
WANG Yao（于研究室）

大学卒業後はソフトウェア開発の仕事に携わっていましたが、その後退職し、大学院に進学しました。私の研究テーマは、大規模言語モデルが人間の価値観をより的確に理解し、社会的に広く認められている道徳基準に即した出力を生成できるようにすることです。最初は漠然としたアイデアしかありませんでしたが、于先生をはじめとする皆様から貴重な指導とサポートをいただき、着実に進展を遂げてきました。学会などに積極的に参加し、同分野の研究者と意見交換や共同研究を行うことで、自身の研究をより洗練させると同時に、キャリア形成にも大いに役立っています。今後はさらに探究を深め、実用的な成果につなげられるよう尽力していきたいと考えています。



博士後期課程 1 年
XIAO Yunyi
（森嶋・伊藤研究室）

私は、2025 年度に情報学学位プログラム博士前期課程から後期課程に進学しました。博士前期課程在籍時には、国際会議やジャーナルでの採択を目標に、研究活動に集中した生活を送ってきました。研究文献の調査から実験の進行や、論文の執筆などを模索しながら行いました。研究活動は自主的に研究分野を探索できるように指導教員の方々から高度な自由度が与えられる一方、異なる時期による需要に応じて手厚い指導をしていただきました。研究室外でも国際交流イベントやゼミに参加する機会がたくさん提供されています。国際学生研究ワークショップを学生主導で開催したり、海外の大学の情報学部に見学に行ったり、世界中の研究者との有意義な多文化交流ができました。とても充実した大学院生活を過ごしたと思います。



Programs/Courses

■ 博士前期・後期課程

人間の活動において情報は重要な役割を果たして来ましたが、近年の技術の進展とともにその重要性は急激に増しております。その様な状況に対応するため博士前期・後期課程では、文理融合の学際的アプローチにより情報を学術・教育・生活・文化等に活用するための専門的業務に携わる人材を養成します。各課程のディプロマ・ポリシーは、WEB からご確認ください。

■ コース

図書館経営管理コース

図書館・博物館・文書館資源管理コース

認証アーキビスト制度

■ 支援制度

TA・RA・チューター

学会発表支援制度

雑誌掲載・別刷支援

奨学制度・就学支援



Access

■ 筑波キャンパス(春日エリア)

鉄道: 秋葉原からつくばエクスプレス快速に乗ると、45 分で「つくば駅」に到着。JR 常磐線ひたち野うしく駅、荒川沖駅、または土浦駅で下車し、「つくばセンター」行きもしくは「筑波大学中央」行きのバスに乗ると、約 30 分で「つくばセンター」に到着。

高速バス: 東京駅八重洲南口高速バスターミナル 発「筑波大学・つくばセンター」行きに乗ると、約 70 分で到着。

徒歩: 「つくば駅」(A1,A2 出口) または「つくばセンター」から徒歩約 10 分。

車: 常磐道「桜土浦 I.C.」、もしくは「つくば中央 I.C.」で降り、北大通りに入ると「筑波大学筑波キャンパス(春日エリア)」に到着。

飛行機: 空港から高速バスで「つくばセンター」まで、羽田空港から約 60 分 / 成田空港から約 60 分 / 茨城空港から約 60 分で到着。

■ 東京サテライト

地下鉄: 東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」M23 下車。徒歩 2 分で「筑波大学東京キャンパス文京校舎」に到着。

